第１回委員会一般意見聴取 WG（2002.9.11 開催）結果概要

庶務発信

開催日時：2002 年 9 月 11 日（水）　14:00～16:15
場　　所：ぱ・る・るプラザ京都　６階会議室６
参加者数：
委　　員：嘉田委員、川上委員、塚本委員、畚野委員、三田村委員、村上委員、山村委員

１　検討内容および決定事項

①　一般意見聴取ＷＧの体制について

・リーダーは、三田村委員、サブリーダーは、塚本委員とする。
・河川管理者には、議論のプロセスを理解してもらうことと、これまでの取組みなどについて伺うケースが予想されることから、毎回出席を要請する。
・議論を円滑に進めるため、メーリングリストを利用する。
・ＷＧは、今後、3 回程度の開催予定。最後のＷＧで最終提言（一般意見）のＷＧ案を確定させ、10 月 24 日に予定される第 4 回最終提言作業部会に提出する。

②今後のＷＧの進め方について

資料 2-1 をもとに、今後のＷＧの進め方について話しあいがあった。
<主な意見>
・関係住民の意見の反映の方法だけでなく、あり方について、幅広く検討する。
・流域委員会における、一般意見に関係するこれまでの活動を整理し、評価した上で、課題などを抽出する。
・住民意見聴取に関する問題について、ＷＧメンバーがヒヤリングに出て行く事も検討する。このことは、委員会にて承認いただくようお願いする。
・これまでに寄せられた一般意見に対する流域委員会としての対応、及び「関係住民の意見反映方法の提言」をより良いものとするための試行的活動については、引き続き検討する。

③フリーディスカッション

ＷＧメンバー全員でフリーディスカッションが行われた。
<主な話題>
・河川管理者のＷＧ参加について
・淀川水系における意見聴取方法の模索
・一般意見の反映方法
・試行的活動の方法

・一般意見聴取ＷＧの方向性

④次回のスケジュール
・委員のスケジュールを調整し、決定する。

2　主な意見交換

＜河川管理者のＷＧ参加について＞

・これまでの取り組みなどについてその場で質問に答えてもらえるメリットがあるので、毎回来てほしい。
　→さらに現状も共有してもらえるので、参加が望ましい。
　→全員来てもらう必要はない。ただ、お互い知恵を出し合う意味では少人数でもオブザーバーとして来てもらったほうがいいと思う。

＜淀川水系における意見聴取方法の模索＞

・アメリカのサンフランシスコでは湖と川にまつわる訴訟問題が起こっていて、住民意見聴取が民主的な考え方で動いている。地理的に琵琶湖と淀川との関係と類似しているので、この意見聴取方法を参考にしてみてはどうか。
　→アメリカは日本に比べて地縁組織が大変弱いので、そのまま適応できない。世界の進んだ地域の方法を模倣するのではなく、淀川水系らしい方法を模索し、世界に先駆ける方法を新たに生み出すべきだ。
　→住民意見聴取の先進国、後進国それぞれあると思うが、今は方法を検討して答えを出そうとするより、その前段階にある住民の意識がどこまで達しているかなど実態を把握することが重要ではないか。

＜一般意見の反映方法＞

・一般意見の反映方法とは単なる手続きを意味するのか、それとも内容までを意味するのか。さらに河川管理者に対して適切に通訳する役割も含んでいるのか。
　→役割も含め、幅広い意味として捉えて良いと思う。
　→資料 2-1 にある方法で、住民の声が反映できるのか疑問だ。河川管理者と住民という枠だけでなく、いろんなセクターの人が参加し、さまざまな立場の人の意見をどうやったら反映できるかも考えないと、わざわざ議論する意味がないのではないか。
　→カナダなどの環境アセスメントでは、現場出張型の意見聴取が実施されている。待ち受け型聴取の場合は聞き取れない意見が多いと思われるので、一般意見聴取ＷＧでも現場出張型の聴取方法を取り入れたらどうか。
　→整備計画の合意形成のコーディネイトを誰が担当するかも問題。今までコーデ

ィネイトの役割を河川管理者にまる投げしていたところに大きな問題があると思うので、それを含めて議論しなければならない。

＜試行的活動の方法＞

・「関係住民の意見反映方法の提言」をスムーズにとりまとめるためにも、試行的活動で取り上げるべき問題を整理しておく必要がある。

→例えば行政の諸計画は、調査に基づいて事実を評価し、課題を達成するための代替案を出して比較調査を行っている。一般意見聴取ＷＧの試行的活動においても、同じように検討すべき問題について調査、さらに事実を評価し、それに対する課題の設定が重要となるだろう。

→意見聴取を行う場合、河川整備計画は長期のスパンで検討されるべきなので、特に若い世代の意見を取り入れるべきだ。

・今までの試行では限られた意識の高い人々が関心のある項目についての意見が多かったのではないか。アンケートなどでサイレントマジョリティの声を把握する必要はないのか。

・アンケートやヒアリングで意見聴取を行う場合、いろいろな立場の人が直感で利己的に話す危険性があるので、議論しているうちに客観性な意見が生まれるディベートの方が有効ではないか。

→まずはアンケートにより「どんな街がいい」「どんな川がいい」という素直な意見を知っておく必要もあるのではないか。その認識の後に、ディベートを行えばいい。

→選挙に行かない若者など、自らの権利と義務を認識していない人がいるが、川に対して関心がなく自ら意見を言わない人にまで、意見を聞く必要はないと思う。

→聴取する内容は、住民の「実態」よりも「住民同士がどうするか」についてが重要だろう。

＜一般意見聴取ＷＧの方向性＞

・一般意見聴取ＷＧは他のＷＧと性格が違うので、自ら勉強しなければならない状態だ。他のシンポジウムに参加する、先進的な地域にヒアリングするなどの必要がある。

→必要に応じて出張を承認してもらえるよう、委員会の場で意見を出してみる。

※ 説明および発言内容については、随時変更する可能性があります。
最新の結果概要については、ホームページでご確認ください。